

平成22年10月27日

広島大学長表彰について

広島大学では、平成14年度に「学長表彰制度」を設け、教育・研究や社会貢献などで特色ある顕著な業績を挙げ、広島大学の発展に貢献した本学教職員や団体および学外の個人や団体に対して毎年11月に顕彰を行っています。

平成22年度の被表彰者として、被表彰者一覧のとおり学内外の2団体および13名を決定しました。

なお授与式は、平成22年11月24日（水）11：00～の予定です。

【表彰の対象】

1. 社会活動に関するもの
人命救助、犯罪防止、災害防止、ボランティア活動 など
2. 教育研究活動に関するもの
教育、教育方法の改善等、学生生活支援等、研究 など
3. 課外活動の振興に関するもの
課外活動の振興のための支援等 など
4. 医療活動に関するもの
医療、疾病の予防のための措置 など
5. 教育研究等支援活動に関するもの
職務の能率増進に係る発明・考案等、キャンパスの施設整備等の整備・環境保全等、安全管理 など
6. 大学改革の増進等に関するもの
大学改革の推進に係る積極的な提案等、社会との連携等、業務運営の改善・効率化、財務内容の改善、点検・評価の充実、情報提供の推進等 など

【お問い合わせ先】

財務・総務室
サービスグループ 三村 秀樹
TEL:082-424-6024、FAX:082-424-6080

広島大学長表彰 被表彰者

所属（団体名）	職名	氏名（代表者）	表彰該当基準	概要
奈良先端科学技術大学院大学	教授	高橋 淑子	教育研究活動	ニワトリの胚発生の研究を基礎に、タンパク質の「エフリン」が 体節形成の際の細胞の切断と整形の司令塔になることを突き止められました。その先駆的な研究は国際的にも高く評価され、本年の猿橋賞を受賞されるなど、本学出身者として、本学の発展に顕著な貢献をされました。
ヒコピア会	代表	出口 博則	教育研究活動	終戦直後の疲弊した広島で、植物学の発展と啓発を目的に、広島植物研究会として発足し、これまで60年におよぶ専門誌HIKOBIAの刊行、学術セミナーの開催、県民・市民を対象とした通算500回を超す植物野外観察会等をおして、人材の育成、地方における植物学の発展に寄与されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
フリージャーナリスト		堀川 恵子	社会活動	本学総合科学部を卒業後、マスメディア業界において、番組制作や著書を執筆されるなど、秀でた活躍をされ、第47回ギャラクシー賞テレビ部門大賞、第32回講談社ノンフィクション賞をはじめとする数多くの賞を受賞されるなど、本学出身者として、本学の発展に顕著な貢献をされました。
東雲親の会	会長	安森 博幸	大学改革の推進	障がい者雇用推進計画の策定への協力や職員の障がい者理解の推進のための適切な助言など多大なご尽力をいただき、本学の法定雇用率の達成や障がい者への働く場の提供による地域貢献などを通じて、本学の発展に顕著な貢献をされました。
広島障害者雇用支援センター	生活支援員	横田 美樹	大学改革の推進	障がいを持つ職員のメンタル面でのサポートや指導員等への適切な助言など労働環境の整備に多大なご尽力をいただき、本学の法定雇用率の達成や障がい者への働く場の提供による地域貢献などを通じて、本学の発展に顕著な貢献をされました。
中国教育国際交流協会	常務理事	林 佐平	教育研究等支援活動	北京研究センター設置当初から、センターの運営に尽力され、平成22年4月センター顧問就任後は、中国各地において本学の広報活動を積極的に推進されています。また中国校友会の会長として、中国に帰国した元留学生同士の交流事業にも尽力され、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院教育学研究科	教授	岡 直樹	社会活動及び教育研究活動	教育学研究科が取り組んだ現代GP「子どもの心と学び支援プログラムの展開」の企画や実施の中心となり、その成功を支えられました。本学の専門性を活かしたこの取組の教育効果は大きく、学生から高い評価を得るとともに、広島市や東広島市など地域社会からも高い評価を得るなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
原爆放射線医学研究所	教授	川上 秀史	教育研究活動	難病中の難病といわれる筋萎縮性側索硬化症において、常染色体劣性遺伝性の家系に注目し、optineurinが新規原因遺伝子であることを発見され、神経疾患研究に大きな進歩をもたらすなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
宇宙科学センター	准教授	川端 弘治	教育研究活動	超新星SN2005czの詳細な天文観測により、これが、理論上予想されながらそれまで発見されていなかった非常に軽い超新星であることを突き止められ、超新星爆発理論のみならず恒星の進化理論や宇宙における元素合成理論にも大きな影響を与えるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院医歯薬学総合研究科	教授	栗原 英見	教育研究活動及び医療活動	歯周病研究の第一人者として、骨髄間葉系幹細胞や脳由来神経栄養因子を用いた新しい歯周組織再生治療を研究され、その研究成果を社会へ還元されるとともに、また歯学部長として口腔保健学科の設置、歯学部附属病院長として病院の統合に尽力されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院生物園科学研究科	准教授	島田 昌之	教育研究活動	哺乳動物の排卵機構の解析から多くの基礎的知見を得て、指導学生が多数の学会賞を受賞するとともに、評価の高い学術誌にその成果が掲載されました。また、応用分野においては、ブタ凍結精液を用いた人工授精法を世界で初めて確立され、遺伝資源の保存を可能としたことが高い評価を得るなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院先端物質科学研究科	教授	鈴木 孝至	社会活動、教育研究活動及び大学改革の推進	地域社会の科学教育の基盤作りに尽力されるとともに、大学・研究機関特許資産規模ランキングにおいて本学の躍進に貢献されました。また、教養教育改革準備室会議委員、平和教育部会委員、教育プログラム推進部副部長、初代学士課程会議議長を歴任されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院医歯薬学総合研究科	教授	谷川 攻一	医療活動	地域連携室の役割を整理・充実 患者支援センターの機能強化を図り、医療材料・医療機器管理体制の整備を実施するなど、病院運営に尽力されました。また、高度救命救急センター長として、重症救急患者に対する高度救命医療の要としての責務を果たし、救急医療の発展に寄与されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
大学院社会科学研究科	准教授	早川 和彦	教育研究活動	ダイナミック・パネル・データ・モデルの回帰係数推定法の新分野で、国際的に高く評価される研究業績を次々とあげられ、計量経済学理論の進展に貢献されるとともに、当該分野における本学の研究水準の高さを広く内外に示されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。
広島大学国際環境協力プロジェクト研究センター	センター長	藤原 章正	教育研究活動	本学の国際環境協力分野の教育・研究成果を統合・発展させ、複眼的・国際的視野で国や地域が直面する課題を見だし、戦略的解決策を設計できる環境リーダーの育成拠点の形成を目指して、教育・研究活動を実施し、2003年の設立以来129名の修了生を世界中に輩出されるなど、本学の発展に顕著な貢献をされました。